

2025年12月ハイパーカレンダーレポート

「ハイパーネットワーク別府湾会議2025『AI未来会議』を振り返って」

ハイパー研は、2年に1度、別府湾会議を開催している(<https://www.hyper.or.jp/activity/bbc>)。この会議は当研究所が設立するきっかけとなったもので、「未来のネットワーク社会」の実現に向けた社会的課題を問う全員参加型の会議である。今年はその開催年で19回目を迎えた。

会議に込めた二つの軸「哲学と学び」

本会議の企画を練る際に、所員の平野さんと重視した二つの軸がある。1つ目は「哲学」の観点。生成AIが爆発的に広がるこの時代に、「人間はAIとどのように向き合えばよいか」、哲学的観点から考えること。当初、「哲学って難しいのでは？」という声もあったが、この先、人間がどこに向かっていくかを考えるのに、「哲学」は不可欠な要素と判断した。2つ目は、「学び」の観点である。学校教育だけでなく、社会に出た後も学び続けることが求められる今、どのような学びのあり方が必要なのかを様々な視点から考える場にしたい。

参加者全員で考える「AI未来会議」を目指して(<https://www.hyper.or.jp/activity/bbc/bbc19th/>)

この二つの軸を踏まえ、「AI未来会議」というテーマを掲げ、「基調講演(AIと哲学)」「スペシャルセッション(最新動向とリスク対策)」「ナラティブトーク(学びのアップデート)」「スタートアップ企業から学ぶ(パネルディスカッション)」で全体を構成した。多くの登壇者に様々な切り口で話題を提供していただき、それらが交わりながら、会議全体として深まっていく形である。オンラインの参加者もいることから、質問や感想は常に全員がクラウド上で共有しながら進めることとした。また交流会では、希望者が発表できる場を用意した。所内のスタッフと何度も打ち合わせを行い、講師にも参加者にも満足してもらえる会議を目指した。



当日会場の様子

集客は予想を大きく上回った。締切りの1週間前に、現地参加は200名を超え、オンライン参加も両日200名以上となり、県外からの参加者や、多様な業種・立場・年齢の方々の参加となった。この反響については「生成AIへの関心の高まり」「広告媒体のデザインの統一(シンプルでさわやかな色合い)」「Web広告、チラシ、SNSなどの広報連携」などが功を奏したのではないかと所内では考えている。一方で、平日開催ということもあり、高校生や大学生といった若い世代の参加が限られた点は、今後の課題である。



「AI未来会議」チラシ

手応えとこれから

実施後、講師の方々から「このような会議は珍しい」「参加して本当に良かった」という声があり、会議のコンセプトを理解していただけたことがとても嬉しかった。参加者からは、9割以上の方から「満足した」「今後も継続してほしい」というアンケート回答があり、内容が評価されたと感じている。さらに、運営スタッフの対応の良さについての記述もあり、当研究所のスタッフの経験がなせる業だと実感する。もちろん、課題は残るものの、関係者全員が「AI未来会議」で目指したことは、一定程度実現できたのではないだろうか。今後は、参加者のみなさんと一緒に、別府湾会議のあり方を考えていきたい。

最後に、一緒に取組んだハイパー研メンバー、講師の方々、ご協力いただいた皆様に、感謝申し上げます 😊

(文責:渡辺律子)